

－市制施行 100 周年記念事業－

# 令和 6 年度 町内会長等と市長との懇談会 実施報告書

## 1 目的

市政情報の発信とともに町内会長等から地域の課題や提言をいただき、各施策に反映させることを目的に、市内 13 地区の町内会連合会が一堂に会し、懇談会を開催した。

また、本市は、2024(令和6)年で、1924(大正 13)年9月1日の市制施行から 100 周年を迎えたことから、この大きな節目を記念し、当懇談会を昨年度からの2年連続企画となる「市制施行 100 周年記念事業」として開催した。

なお、当懇談会は、次の 100 年の礎となる地域活動を考え合う契機とするため、「みんなの思いや願いを結び、多様性と調和を尊重し、次の 100 年へ繋げること」を基本方針として開催した。

## 2 開催日時・会場

- (1) 開催日時 2024(令和 6)年 11 月 29 日(金) 14:00～16:00
- (2) 会 場 市役所 本庁舎2階 特別会議室

## 3 参加者

出席者数:137 名

- (1) 各地区町内会連合会長、町内会長 等
- (2) 市長、副市長等特別職、教育長、上下水道事業管理者、各部局長
- (3) 市議会議員

## 4 懇談テーマ

「これからの地域活動と次世代へ繋いでいきたいもの」

- ・地域の歴史、文化、伝統や町内会等が取り組んできた地域活動で、次世代へ伝えていきたいこと

## 5 発表

各地区からの発表 次ページ「懇談テーマ一覧」のとおり

## 懇談テーマ一覧

No.	地区	タイトル	発表者（敬称略）
1	郡山中央	町内会を未来へと繋ぐため。 －郡山中央町内会連合会としての使命－	郡山中央町内会連合会 副会長兼事務局長 日下 俊一郎
2	安積	オールあさか被災者支援事業について	安積町自治会長会 会長 高山 光正
3	三穂田	豊かな故郷の継承について	三穂田町区長会 会計 吉田 元治
4	逢瀬	これからの世代へ繋いでいきたい逢瀬町の自然や伝統	逢瀬町区長会 会長 菅野 正光
5	片平	片平町の伝統行事である「うねめ供養祭」について	片平町区長等連絡協議会 会長 鹿又 進
6	喜久田	喜びが幾久しく続き実り豊かなふるさとづくり	喜久田町区長会 会長 渡邊 公靖
7	日和田	「思いは世代を超えて」～伝統芸能の復活～	高倉人形浄瑠璃座 会長 仲本 武司
8	富久山	富久山地域の歴史・文化・伝統等の郷土愛の再認識について	郡山市富久山郷土史研究会 会長 高橋 康彦
9	湖南	猪苗代湖の湖岸清掃と湖南町の観光振興について	湖南町区長会 副会長 村松 千尋
10	熱海	安子島小学校「すすく水田」活動について	熱海町行政区長会 会長 後藤 秋夫 熱海町行政区長会 安子島区長 藤田 稔
11	田村	次世代へ繋げていく 田園風景が広がる自然豊かで住みやすい田村町	河川谷田川の水と命を守る会 会長 力丸 庄司
12	西田	西田町根木屋区の取り組みについて	根木屋区 区長 増子 善次
13	中田	中田町の文化・伝統工芸	中田町内会連絡協議会 会長 吉田 善守

## 6 発表に対するコメント

### 《郡山市》

- ・それぞれの地域には、独自の風習や行事、技術が存在し、その伝統や文化に触れることで地域への愛着が育まれる。各地域に残る素晴らしい伝統と文化をお互いの地域同士で認め合い、高め合いながら、地域間の絆も深め、その伝統と文化を次世代へと引き継いでいていただきたい。
- ・災害対策については、これまでの行政サービスの提供という形から行政サポートという方向にシフトしており、これからは住民の皆様への自助、共助の取組みに対し、行政がどのようにバックアップしていくことが効果的なのかを研究していかねばならないと考えている。
- ・市民の皆様への自主的な活動を尊重しつつ、その活動がさらに個性を発揮していけるよう、それぞれの役割分担を明確化しながら、郡山の文化・伝統を次世代へ繋いでいくために行政としての責任もしっかりと果たしていきたい。
- ・各地区の発表を通して、郡山市は誰かが作るのではなく、市民の皆様が自らの手で作り上げてきたまちであるということに改めて実感した。市民の皆様一人ひとりには子どもたちや地域の未来のために自ら行動するという姿勢が根付いており、これが郡山市民共通の精神であると思う。これからも市民の市民による市民のためのまちづくりを大切にしていきたい。

### 《郡山市自治会連合会》

- ・先人たちが築き上げてきた郡山の歴史は、私たちにとって誇りであり、学びの源。私たちはその歴史をしっかりと受け止め、次世代を担う子どもたちに「開拓者精神」を引き継いでいく責任がある。
- ・「誰一人取り残されない郡山」を実現するためには、市民一人ひとりの英知と活力を結集し、共に歩んでいくことが不可欠。これからの100年に向けて、私たちがどのような郡山を築いていくのか、そのビジョンを共有し、具体的な行動に移していくことが求められている。
- ・地域の皆様が互いに支え合い、助け合う姿勢は、地域社会の絆を深めるだけでなく、より良い未来を築くための基盤となる。どうか、これからも地域の皆様同士で手を取り合いながら、素晴らしい文化や伝統、自然環境等を次世代へと繋げる活動を続けていていただきたい。

# 町内会を未来へと繋ぐため —郡山中央町内会連合会としての使命—

【郡山中央地区】発表者（敬称略）

郡山中央町内会連合会 副会長兼事務局長 日下 俊一郎

## 概要

- ・1983（昭和 58）年7月2日、町内会相互の連携を図ることを目的に旧郡山地域と富田、大槻地域を区域とした11連合会、293町内会により発足した。
- ・現在では、26連合会、308町内会が加入し、「豊かで明るく住みよいまちづくりの推進」を目標に、定期総会や役員会のほか、4つの専門部会を組織し、相互の連携と健全な発展のため、活動を行っている。

## 発表内容

### <町内会の現状と課題>

- ・町内会は地域住民の交流や情報共有、防災活動などに大きな役割を果たしている一方で、加入率の低下や役員の手不足、高齢化等の解消といった様々な課題に直面している。

### <デジタル技術の活用について>

- ・町内会活動にデジタル技術を取り入れることで、情報共有の効率化や新たなサービス・価値の創出等、様々な効果が発揮されている。当連合会内では、SNS やアプリを活用し、町内会活動のデジタル化に取り組んでいる町内会が複数あり、優良事例の横展開を図りながら諸課題への対応に努めている。

### <地域活動の重要性を再認識すること>

- ・町内会活動を持続可能なものとしていくためには、地域住民が地域活動の重要性を再認識していくことが必要。
- ・子どもたちの見守り活動や防犯・防災への取り組みが地域の絆を深めるために重要。
- ・防犯パトロールや防災訓練を通じて住民同士の連携を強化し、有事の際の助け合い精神を育むことが求められる。

### <外国人との共生について>

- ・郡山市内には3,000人以上の外国人が居住している。持続可能な町内会活動を考える上では外国人住民との交流が不可欠。これからは、多様性を尊重し、外国人住民が地域社会に参加しやすい環境を整えていく必要がある。
- ・外国人との共生については未知の分野であるため、行政の支援も必要。
- ・地域の声を行政に届けることも連合会の役割の一つ。町内会を未来へと繋ぐために町内会同士の横のつながりと「助け合い」の精神を大切にしながら活動を続けていきたい。



ZOOM を活用した班長会議  
（桃見台地区）



子どもの見守り活動  
（大槻地区）



防犯訓練  
（久留米地区）

# オールあさか被災者支援事業について

【安積地区】発表者（敬称略）

安積町自治会長会 会長 高山 光正

## 概要

- ・安積地区においては、令和元年東日本台風の水害を契機に、2019（令和元）年から、災害発生時に安積地区内の町内会同士が支え合う体制を整備する「オールあさか被災者支援事業」を実施している。

## 発表内容

<オールあさか被災者支援事業における4つの基本事業>

- ・1つ目は、災害発生時に各町内会長から被災状況に関する情報を収集し、被災状況に応じて各種団体（民生委員や社会福祉協議会等）と連携した支援を実施する。
- ・2つ目は、義援金の募集と贈呈。安積地区内の被災していない町内会に協力を依頼し、被災町内会へ義援金を贈呈する。
- ・3つ目は、町内住民に支援物資の提供を呼びかけ、衣類や毛布、食器などの生活支援物資を被災町内会へ提供する。
- ・4つ目は、被災地域での炊き出しの実施。各種団体と協力して被害の大きかった地域へ食事を提供する。

<平時の取組み>

- ・災害時に財政面での支援が行うことができるよう、安積町自治会長会の予算から毎年「災害特別積立金」の積立を実施している。
- ・安積町の中で唯一、阿武隈川で分断されている神明下町内会は、台風及びゲリラ豪雨の発生により水害の影響が大きい地区である。当町内会では、2017（平成29）年から指定避難所として協定している帝京安積高等学校と連携し、毎年防災訓練を実施。今年度も高齢者等を介助しながらの垂直避難訓練や段ボールバットの設営訓練を実施したほか、集会所において、日本赤十字社職員の指導の下、防災食の調理等を実施した。
- ・今後もゲリラ豪雨などの災害が頻発することが想定されるため、高齢者をはじめ要支援者等に配慮しながら、防災活動の向上に力を入れていきたい。



東日本台風時の炊き出し支援



帝京安積高との合同避難訓練



段ボールバットの設営訓練

# 豊かな故郷の継承について

【三穂田地区】 発表者（敬称略）

三穂田町区長会 会計 吉田 元治

## 概要

- ・「笹原川の千本桜」や「富岡の唐傘行灯花火」をはじめ、町内に広がる田園風景は四季折々の美しさを見せ、地域の魅力を高めている。高齢化や人口減少が進む中、三穂田町の豊かな環境や風土、文化を後世に残すため、「みほたカフェ&マーケット」等の事業を通じて、「三穂田町に住んでよかった」「これからも住み続けたい」と思ってもらえるような地域づくりに取り組んでいる。

## 発表内容

### <現状と課題>

- ・三穂田町の高齢化率は約4割に迫っており、高齢者が多い地区の一つである。
- ・郡山市全体の人口が減少している中、三穂田町も同様に人口減少が続いている。

### <高齢世帯を対象とした支援事業>

- ・高齢者に特化した三穂田町の全町的事業として、「みほたカフェ&マーケット」を毎年開催。家にこもりがちな高齢者が地域住民と集い、お茶を飲みながら談笑したり、会場内では介護教室や楽しい催し物、地元農作物等の販売を行うなど、「三穂田町に住んでよかった」と思えるような地域づくりに努めている。

### <三穂田町の環境・風土>

- ・三穂田町は米の一大生産地としても位置づけられており、町内には広大な田園風景が広がっている。
- ・春には「笹原川の千本桜まつり」、秋には本市の重要無形民俗文化財に指定されている「富岡の唐傘行灯花火」など、町内各地において祭りが催され、心温まる彩り豊かな様相を呈している。
- ・三穂田町の環境・風土を後世に残すため、特に若い世代の住民にその価値を再認識してもらい地域に対する愛情を育んでいくことが、将来も住み続けたいという思いに繋がっていくものと考えている。
- ・地域の課題に対して地域全体で向き合い、誰もが安心して暮らせる地域づくりに取り組んでいきたい。



笹原川の千本桜



富岡の唐傘行灯花火

# これからの世代へ繋いでいきたい逢瀬町の自然や伝統

【逢瀬地区】発表者（敬称略）

逢瀬町区長会 会長 菅野 正光

## 概要

- ・豊かな自然と観光資源に恵まれる逢瀬町では、地域の魅力を次世代に繋ぐ活動が続いている。「浄土松公園まつり」では、地域住民が参加できる多様なアクティビティが企画され、交流人口の増加にも大きく寄与している。また、江戸時代から続く「多田野鋤柄舞田植踊り」は、伝統的な儀式として復活し、次世代へ継承されている。

## 発表内容

### <豊かな観光資源>

- ・逢瀬町は、面積の半分以上が山林という自然豊かな地域であり、高篠山森林公園や郡山自然の家などのアウトドア施設、市指定天然記念物の夏出の大イチョウなど、観光資源にも恵まれている。

### <浄土松公園まつり>

- ・県の名勝天然記念物「きのこ岩」で有名な浄土松公園において、毎年、浄土松公園まつりを開催しており、逢瀬町の魅力を市内外に発信している。
- ・グラウンドゴルフニアピン大会や手作り缶バッチコーナー等の子ども向けのイベントのほか、郡山北警察署との連携による高齢者交通安全ゲートボール大会など、多様な催しを企画し、地域住民が年代を問わず参加できる裾野の広いイベントとして、毎年、市内外からも多くの方々が参加し、地域の繋がりの強化と交流人口の増加に大きく貢献している。

### <多田野鋤柄舞田植踊り>

- ・江戸時代から続く「多田野鋤柄舞田植踊り」は、「寸劇」と呼ばれる滑稽な掛け合いを取り入れた演劇と、早乙女による「田植踊り」とで構成されており、五穀豊穡・家内安全を祈る伝統的な儀式である。
- ・戦後に一度途絶えるも、1965（昭和 40）年に当時の逢瀬町民謡保存会により再び復活し、現在では逢瀬中学校の生徒へ指導継承を行っており、逢瀬地区各種団体賀詞交歓会等において披露される等、逢瀬町の伝統芸能を次世代へ繋ぐ活動が続けられている。

### <逢瀬町区長会としてのこれから>

- ・町内8つの行政区で構成される逢瀬町区長会としては、誰一人取り残されないという郡山市 SDGs の理念を実現できるよう、周辺地域とも連携を図りながら、地域の魅力や伝統、文化を次世代につなぐ活動に努めていきたいと考えている。



浄土松公園まつり  
(アトラクションステージ)



浄土松公園まつり  
(グラウンドゴルフ)



多田野鋤柄舞田植踊り

# 片平町の伝統行事である「うねめ供養祭」について

【片平地区】発表者（敬称略）

片平町区長等連絡協議会 会長 鹿又 進

## 概要

- ・うねめ伝説発祥の地である片平町は、1971（昭和 46）年8月5日に、伝説が取り持つ縁で、郡山市と奈良市が姉妹都市を提携して以来、毎年8月に奈良市長をはじめとした奈良市親善使節団を迎え、山ノ井公園のうねめ神社において、「うねめ供養祭」を、町を挙げて執り行っている。

## 発表内容

### <うねめ供養祭>

- ・うねめ供養祭は、片平町の山ノ井公園内にある「うねめ神社」で行われる伝統行事。
- ・町を挙げての行事であり、うねめ観光協会を中心に町内の約 20 の活動団体が協力し、毎年6月から8月にかけて、延べ 300 人体制で事前準備、運営等を行っている。
- ・供養祭当日には、郡山市の姉妹都市である奈良市から奈良市親善使節団を迎え、小中高生で結成された「岩代國郡山うねめ太鼓小若組」による歓迎演奏が行われる。
- ・供養祭は「春姫（うねめ）の霊を慰める」ことを目的としており、奈良市と郡山市の市長や議長などが参列し、儀式は神式と仏式の儀で執り行われ、最後にはミスうねめと葛城王による献花が行われる。
- ・「鶴は千年、亀は万年」という言葉に象徴されるように、供養祭終了後には、うねめ伝説が永く後世に語り継がれることを祈り、池に亀の放生を行っている。古くから亀の甲羅に願い事を書き池に放つと願いが叶うと伝えられている。

### <姉妹都市 奈良市との交流>

- ・中秋の名月に執り行われる奈良市の采女祭に参加し、天平服を着て行進するなど、地域文化とのつながりを深めている。

### <未来への願い>

- ・うねめ供養祭は、郡山市民に未だ認知されていない現状があり、さらなるアピールが求められている。
- ・認知度の向上を図るためには市が地域と一体となって若い世代に歴史や奈良市との関わりを知ってもらい、体験してもらうことが重要と考えている。
- ・今後も観光協会や関係団体等と協力を図りながら、伝統行事である「うねめ供養祭」を絶やさずに、次代を担う子どもたちに引き継いでいきたい。



うねめ太鼓小若組による歓迎の演奏



願いを込めて亀を放生



奈良采女祭 花扇奉納行列

# 喜びが幾久しく続き実り豊かなふるさとづくり

【喜久田地区】発表者（敬称略）

喜久田町区長会 会長 渡邊 公靖

## 概要

- ・「喜久田町の未来を考える会」による金久保地区での分譲住宅地開発をはじめ、「藤田川ふれあい桜」等の観光資源の活用による地域の魅力創出など、地域コミュニティの持続や子育て世代の定住促進等を目的に喜久田町区長会が中心となり、多様な活動に取り組んでいる。

## 発表内容

### <歴史的変遷と現在の課題>

- ・喜久田町の発展は明治時代の国営事業である安積開拓に始まる。久留米や鳥取、土佐などの土族が入植し、現在も地名や入植者の碑、神社などが町内に残っている。
- ・昭和40年に郡山市と合併し、その後、交通網の整備に伴い、卸団地や流通団地が開設。近年では、東原地区において、土地区画整理事業が進められ、市街化が進展している。
- ・喜久田町も人口減少社会に直面しており、喜久田小・中学校に通う児童・生徒数は減少傾向にある。また、町内会等においては役員の高齢化、担い手不足が地域コミュニティの持続に影響を及ぼしている。

### <未来を考える会の設立と定住人口増加に向けた取り組み>

- ・2019（平成31）年3月に区長会をはじめ、町内の各団体で構成される「喜久田町の未来を考える会」を設立。
- ・定住人口の増加を目指し、JR喜久田駅の東側に位置する金久保地区において分譲住宅地とする開発計画（面積約5.2ha、住宅区域3.4ha、143区画）を進めており、2024（令和6）年9月に宅地造成工事が着工。竣工は2026（令和8）年7月を予定しており、子育て世代の定住が増えることでまちの活性化が期待されている。

### <藤田川ふれあい桜>

- ・藤田川は喜久田町を東西に流れ、喜久田ふれあいセンターの東側にかかる堀之内橋を中心に約500本のソメイヨシノの桜並木が立ち並ぶ。今年は5年ぶりに「藤田川桜まつり」が開催され、多くの方々が訪れ大盛況であった。

### <まちづくりの理念>

- ・喜久田町区長会としては、「喜びが幾久しく続き実り豊かなふるさとづくり」という理念を受け継ぎ、地域コミュニティの持続や子育て世代の定住促進など、多様な課題に対して積極的に取り組んでいきたいと考えている。



金久保地区



藤田川ふれあい桜

# 「思いは世代を超えて」～伝統芸能の復活～

【日和田地区】発表者（敬称略）

高倉人形浄瑠璃座 会長 仲本 武司

## 概要

- ・地域コミュニティの希薄化が進む今、地域のつながりを守ろうと、高倉人形浄瑠璃座の復活に向けた取り組みが続いている。
- ・人形の操作を学ぶワークショップや出前講座等の活動には幅広い年代の方々が参加し、民俗芸能を通じて、地域への誇りや大切に思う心が育まれ、それらが次の世代へと繋がっていくことが期待されている。

## 発表内容

### <高倉人形浄瑠璃座の復活>

- ・江戸時代に宿場町として栄えた日和田町高倉地区には、江戸時代中期から人形浄瑠璃の一座が存在し、1893（明治 26）年にその歴史に幕閉じるも、一座が使っていた人形や道具の数々は福島県重要有形民俗文化財にも指定され、今日まで大切に保存されてきた。この人形浄瑠璃の文化を復活させ、次の世代へ継承しようと、住民有志が実行委員会を立ち上げ、2017（平成 29）年から一座復活に向けた活動が続いている。

### <民俗芸能を次世代へ繋ぐために>

- ・人形の操作を学ぶワークショップや成果発表会を開催し、地元の子もたちからお年寄りまで幅広い年代の方々が参加し、地域の伝統芸能への愛着を深めている。
- ・郡山市内外で出前講座を開催するなど、地域文化の継承のみならず、郡山市民共通の財産を守り受け継ぐ取り組みを続けている。
- ・地域コミュニティが希薄になる中で、高倉人形浄瑠璃座の活動を通し、様々な価値観を持つ住民同士が互いに協力し合う活動は、人と人との絆を強める重要な要素となる。特に自然災害が多発する現代において、地域住民の結束は重要。震災を経験した私たちだからこそ、地域共同体の重要性を再認識し、助け合いながら持続可能な地域社会を築いていきたい。
- ・高倉人形浄瑠璃座の復活は単なる文化的な再生にとどまらず、地域経済の活性化や地域コミュニティの絆を深める大きな意義を持つ。伝統芸能を通じて地域住民が一体となり、共通の目標に向かって努力することで、新たな地域の魅力が生まれることも期待される。
- ・これからも民俗芸能を通して地域への誇りや大切に思う心が育まれ、それらが次の世代へと繋がっていくよう高倉人形浄瑠璃座としての活動を続けていきたい。



高倉人形浄瑠璃座



人形浄瑠璃体験ワークショップ



人形浄瑠璃発表会

# 富久山地域の歴史・文化・伝統等の郷土愛の再認識について

【富久山地区】 発表者（敬称略）

郡山市富久山郷土史研究会 会長 高橋 康彦

## 概要

- ・富久山郷土史研究会では、古跡案内や郷土かるたの普及等、地域の方々の郷土に対する愛情を育み、その歴史と文化を次世代につなげるため、各種活動に取り組んでいる。

## 発表内容

### <富久山郷土史研究会の活動>

- ・富久山郷土史研究会では、「故きを温ねて新しきを知る」をテーマに、古跡案内等の活動を通して、地域の歴史や文化の伝承に取り組んでいる。

### <富久山郷土かるた>

- ・毎年1月には「新春富久山郷土かるた大会」を開催しており、研究会が手書きで作成した郷土史かるたは全国的にも有名で、かるた大会には子どもからお年寄りまで多くの方々が参加し、地域交流、親睦を深める貴重な機会となっている。
- ・「富久山郷土かるた」は1950（昭和25）年に「富久山郷土史研究会」の発足記念として、創立メンバーにより作成された「かるた」であり、郷土の名所や史跡を題材に、かるたの札、絵札を作成している。

### <富久山町の神社仏閣>

- ・富久山町には豊景神社、日吉神社、鹿島神社、八雲神社、本栖寺といった歴史ある神社仏閣が複数存在しており、この神社仏閣の歴史的背景やその成り立ちを理解することが、地域の文化を深く知るための重要な鍵となる。

### <郡山合戦と日吉神社>

- ・富久山町久保田地区において、1588（天正16）年に伊達政宗軍と、佐竹氏・芦名氏をはじめとする反伊達連合軍との大きな戦いが起こった。この戦は「郡山合戦」と総称され、山王館と郡山城の間の逢瀬川周辺が戦場となり、伊達軍の本陣となったのが日吉神社である。
- ・郡山合戦で伊達政宗の身代わりとなり戦死した伊東肥前守重信を称えるため、毎年10月27日には伊東氏の供養祭が開催され、研究会の主たる活動の一つになっている。

### <今後の展望>

- ・富久山郷土史研究会では今後も様々な活動を通じ、地域の方々の郷土愛の醸成を図り、地域の歴史や文化、伝統を次の世代へと繋いでいきたいと考えている。



新春かるた大会



豊景神社



古跡案内

# 猪苗代湖の湖岸清掃と湖南町の観光振興について

【湖南地区】発表者（敬称略）

湖南町区長会 副会長 村松 千尋

## 概要

- ・湖南町では豊かな観光資源を次世代へと継承するため、地域が一丸となり、「猪苗代湖」の環境保全対策や「湖まつり」の開催を通じた観光振興への活動が続けられている。

## 発表内容

### <湖南町の豊かな自然>

- ・湖南町は郡山市の最西部に位置し、四季折々の自然が楽しめる風光明媚な地域である。
- ・春には水芭蕉や桜並木、夏には猪苗代湖での湖水浴や布引高原での花見、秋には紅葉、冬には白鳥など、多様な観光資源を有しており、特に猪苗代湖に面した湖南七浜は、磐梯山を一望できる美しい景観が広がり、夏には多くの家族連れで賑わいを見せる。

### <猪苗代湖の環境保全対策>

- ・近年、湖岸に漂着するゴミ等による猪苗代湖の水環境悪化が問題となっている。
- ・湖南町区長会では猪苗代湖の環境を守るため、猪苗代湖・裏磐梯湖沼水環境保全対策推進協議会が実施する猪苗代湖クリーンアクションへの参加や区長会独自での一斉清掃等を実施しているほか、湖南高校と湖南小中学校では湖南七浜の湖岸清掃が伝統行事となっているなど、地域が一丸となり、猪苗代湖の環境保全対策に取り組んでいる。

### <地域の魅力発信に向けた取組み>

- ・湖南町は猪苗代湖の水の恵みに感謝し、その豊かな観光資源を広くPRするために、湖南町商工会を事務局とした郡山湖南まつり実行委員会を組織し、毎年7月の湖水開きに併せて湖まつりを開催している。
- ・湖まつりでは、たらい舟やウォーターサイクリング、サップ体験などのアクティビティや花火大会が行われ、毎年、町内外から多くの観光客が訪れている。

### <ラムサール条約への登録活動>

- ・今年度から郡山市をはじめ、福島県や会津若松市、猪苗代町と協力してラムサール条約への登録活動が始まり、将来にわたる湿地の保全と賢明な利用の推進に期待が寄せられている。
- ・今後も湖南町では、福島県のシンボルである猪苗代湖の環境保全に努め、観光振興を図るために関係機関等と連携しながら各種活動を継続し、湖南町の豊かな観光資源を次世代へと繋げていきたいと考えている。



猪苗代湖（湖南町鬼沼からの景色）



クリーンアクションの様子



湖まつり（花火大会）

# 安子島小学校「すくすく水田」活動について

【熱海地区】発表者（敬称略）

熱海町行政区長会 会長 後藤 秋夫、安子島区 区長 藤田 稔

## 概要

- ・安子島小学校の「すくすく水田」活動は、平成11年から始まり、地域住民の協力の下、25年以上続けられている。この活動を通じて、子どもたちは食の大切さや命の不思議さを学び、地域の方々との関係も深まっている。現在は梨の受粉やサツマイモ栽培など活動の幅を広げ、今後、次世代へと継承していくことが期待されている。

## 活動内容

### <安子島小学校「すくすく水田」活動>

- ・学校農園の活動を安子島小学校でも始めようと、平成11年から「すくすく水田」の活動がスタートし、小学校や地域住民の協力の下、25年以上にわたり活動が続いている。
- ・当初は「田植え」「稲刈り」「収穫祭」の3つの柱からスタートし、その後「草取り作業」「鯉の放流」「粃播き」「生き物調査」「生育観察」「わら細工」など、多様な活動が追加された。
- ・現在は「粃播き」から「わら細工」まで6つの取り組みが行われており、この活動を通じ、子どもたちや先生方と、「安子島老人クラブ」や「JA女性部」、「JA農青連」等の地域の協力者との関係がより緊密になってきたと感じている。
- ・農業体験を通じ、子どもたちは「食べる」という生き物としての根源的な行動について考えるきっかけとなり、命の不思議さや大切さを実感できる貴重な機会となっている。
- ・地域の方々は子どもたちに農業の実態や素晴らしさ等を伝えることで、自分自身の仕事や活動に誇りを持つことにもつながっている。

### <今後の展望について>

- ・「すくすく水田」活動は、多くの方々の支援によって成り立っている。数年前からは地域の特産である梨の受粉やサツマイモの栽培など活動の幅も広がりつつある。
- ・下級生と上級生では経験する内容が異なるため、子どもたちにとっては毎年新鮮な体験となっている。
- ・「すくすく水田」活動は、PTAや学校教職員、地域住民の皆さんの農業に対する熱い思いと、子どもたちを地域において大切に育みたいという強い思いが実を結んだ活動である。この活動が次世代へと継承されるよう熱海地区としても支援し、見守っていきたい。



すくすく水田



児童・教職員・地域の方々



田植えの様子

# 次世代へ繋げていく 田園風景が広がる自然豊かで住みやすい田村町

【田村地区】発表者（敬称略）

河川谷田川の水と命を守る会 会長 力丸 庄司

## 概要

- ・田村町は、田園風景が広がる自然豊かな住みよい地域で、この地域を後世へ残すべく環境美化をはじめ各種活動に取り組んでいる。

## 発表内容

### <豊かな自然を有する田村町>

- ・田村町は、四季折々の美しい自然環境を有する地域である。春には桜が咲き誇り、その美しさは多くの人々を魅了する。夏には緑豊かな風景が広がり、秋には、黄金色の田園風景と紅葉が訪れる。稀に冬には雪が積もることもあるが、温暖な気候が特徴で、四季折々の風景は地域住民の心を和ませる。

### <環境保護への取り組み>

- ・地域の環境保護活動として、宇津峰山の環境美化が進められている。谷田川行政区や、やたがわ環境を守る会、県立岩瀬農業高校が協力し、山野草の群生地復活を目指して移植作業や草刈り作業を行っている。また、栃山神行政区ではホタルの生息域を保護するための草刈り作業も実施されている。

### <一級河川「谷田川」>

- ・田村町は、一級河川である谷田川や黒石川等の河川沿いに多くの行政区が発展しており、特に田村町の東西方向、田母神から金屋まで直線で約 19 km に渡って流れる谷田川沿いには、田村地区内 30 の行政区のうち 12 の行政区が位置している。これらの河川は農業用水としても利用されており、地域の農業にとって重要な存在となっている。

### <産業廃棄物最終処分場の問題>

- ・現在谷田川沿いには産業廃棄物最終処分場が稼働中、建設中、そして建設予定の 3 つ存在し、環境への影響が懸念されている。特に、山が削られることによって一盃山や蓬田岳、宇津峰山からの眺望や河川への影響が心配されている。
- ・処分場事業者は安全性を主張しているが、既に発生している谷田川の水の汚濁問題に対して地域住民は不安を抱いている。
- ・先人たちが築いてきた田園風景が広がる自然豊かな「田村町」を後世に残していくため、今後も環境保護活動等、様々な活動に励んでいきたい。



田村町の豊かな自然  
(宇津峰山)



岩瀬農業高校の生徒による  
山野草植生



宇津峰山の環境美化活動

# 西田町根木屋区の取り組みについて

【西田地区】発表者（敬称略）

西田町区長会 会長 松崎 昭、根木屋区 区長 増子 善次

## 概要

- ・西田町根木屋区では、「班交流会」や全区民対象の参加型イベントの開催、また、地域情報誌「広報ねぎや」の発行等、様々な活動を通じ、区民の交流促進と地域活性化を図りながら、「支え合いの精神で安心して暮らせる地域づくり」を目指している。

## 発表内容

### <西田町根木屋区の概要と加入促進活動>

- ・西田町根木屋区は西田町の南部に位置し、2024（令和6）年1月1日現在で人口が565人、200世帯で構成されている。2000（平成12）年頃から新興住宅の開発が進み、加入世帯も増加。現在では加入世帯の内、約6割を新興住宅世帯が占めている。
- ・世帯同士の親睦交流を深めるため、各班において、「班交流会」を実施。転入世帯に対しては、区の見守りやメリット等を説明し、区活動への理解促進を図っている。
- ・広報誌等を通じて、区内の要望や危険箇所についての情報収集を行い、区民が協力し合いながら対応にあたっている。また、行政が対応できない私道の補修やゴミステーションの修繕に対しては、区から助成金を交付している。

### <地域の情報誌「広報ねぎや」>

- ・地域の情報誌である「広報ねぎや」は、1992（平成4）年5月の第1号発行以来、根木屋区の大切な情報源として区民に愛され、今年8月で第400号を迎えた。
- ・紙面には、地域活動の様子や行事予定のほか、行政からのお知らせや福祉・健康に関するミニ知識、地域住民からの寄稿まで幅広く掲載され、毎号手作りの記事は地域への愛着を育む存在として、根木屋区の文化と伝統の継承にも大きく貢献している。

### <地域行事や伝統文化を通じた多世代間交流>

- ・根木屋区では毎年、全区民が交流できるイベントを企画しており、今年度は「収穫祭」と「ボッチャ大会」を実施し、多くの方々が訪れ大盛況であった。
- ・「根木屋音頭保存会」は小学生から高校生が所属し、地域のイベント等で太鼓演奏を行いながら、伝統芸能を継承している。
- ・日枝神社秋季例大祭では、11月2日の宵祭りに子供たちが制作した絵灯籠が点灯され、本祭りでは子供神輿や獅子舞が練り歩き、区全体が祭り一色に。世代を超えた交流の場となっている。
- ・西田町根木屋区では、今後も様々な活動を続けながら、支え合いの精神で安心して暮らせる地域づくりを目指していきたいと考えている。



班交流会



絵灯籠と日枝神社宵祭



子供神輿

# 中田町の文化・伝統工芸

【中田地区】発表者（敬称略）

中田町内会連絡協議会 会長 吉田 善守

## 概要

- ・中田町では、「柳橋歌舞伎」や「海老根 長月 宵あかり 秋蛩」、「中田地区駅伝競走大会」など、文化・伝統が地域に根付いている。また、近年では、地域交流の新たな取り組みとして「モルック」を地域活動に導入するなど、時代の変化等に対応しながら、中田町の伝統や文化、住民の絆を次世代へ繋げる活動が続けられている。

## 発表内容

### <中田町の文化・伝統工芸>

- ・中田町では「海老根 長月 宵あかり 秋蛩」が、「柳橋歌舞伎」と同時期に開催され、600 基の灯ろうが田園に灯る姿はまさに幻想的で、毎年地区内外から多くの方々が訪れる。
- ・「秋蛩」に欠かせないのが「海老根伝統手漉和紙」。海老根地区では江戸時代から明治時代まで、農閑期の副業として、約 80 戸で「手漉き和紙」作りが行われていたが、1988（昭和 63）年に最後の 1 戸が廃業し、一度途絶えてしまった。その後、公民館講座をきっかけに 1998（平成 10）年に伝統技術を後世に繋げようと「海老根伝統手漉和紙保存会」が結成され、和紙づくりが復活した。
- ・海老根小学校では卒業証書として「手漉き和紙」作りを行うなど、地域に根ざした活動が続けられている。現在、和紙を漉くことができる職人は 3 名で、保存会では後継者育成や和紙の品質向上に努めながら、一人でも多くの方々に海老根手漉和紙を知ってもらい、関わりを持つ方が増えるよう各種活動に励んでいる。

### <地域交流の新たな取り組み“モルック”>

- ・フィンランド発祥のニュースポーツ「モルック」。中田町では子どもたちの減少により、ドッジボール大会の実施が困難となったことを受け、2021（令和 3）年度から少年スポーツ大会に「モルック」を導入。翌年度には「中田モルッククラブ」を設立し、市内での普及活動や大会開催等を行うほか、今年度は北海道函館市で開催された世界大会にも出場した。

### <未来への願い>

- ・地区を代表する行事「中田地区駅伝大会」の「一本のタスキ」のように、それぞれの課題や時代の変化に対応しながら、中田町の伝統や文化、そして、それらに携わる方々の思い等が「人から人」へ、そして、「次代」へと繋がることを願い、今後も各種活動に励んでいきたい。



海老根 長月 宵あかり 秋蛩



海老根伝統手漉和紙



中田少年スポーツ大会「モルック」